

公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割

～ 保護者との信頼関係を目指して ～

神奈川県相模原市 市立南上溝保育園 園長 後藤 美智枝
市立内郷保育園 園長 安藤 文子

○設置区市町村概要

(人口) 722,033人 (平成31年3月1日現在)

(保育所数) 公: 25カ所 (児童保育園1カ所含む) 私: 75カ所 計100カ所

(認定こども園: 幼保連携型) 公: 1カ所 私: 30カ所 計31カ所 保育型: 1カ所

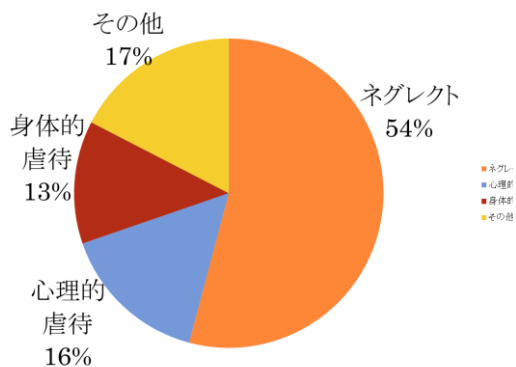
1. はじめに

平成30年4月1日から、保育所保育指針が改正されました。その中の子育て支援に目を向けると、「多様な背景を持つ保護者家庭への適切な対応」が取り上げられています。また、様々な研究成果によって、乳児期における自尊心や自己制御、忍耐力といった社会的情動的側面における育ちが、大人になってからの生活に影響を及ぼすことが明らかとなっており、乳幼児期の生活がいかに重要である事が示されています。

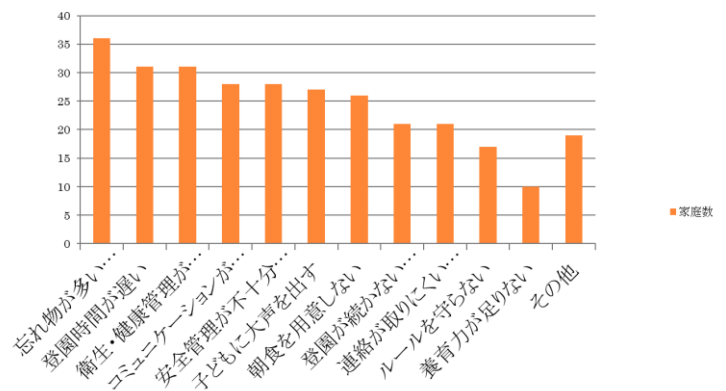
しかし、実際の保育現場では不適切な養育等が疑われる家庭も増加傾向にあり、保護者への対応は複雑で難しいものになっているのではないのでしょうか。

今回児童虐待(CA)ケースをはじめ、難しい背景を抱える保護者支援をきっかけに、公立保育所・公立認定こども園等としてどのような対応をし、どのようにしたら少しでも保護者との距離を近づける事ができるのか、私たち保育士に求められるスキルアップや人材育成を、どのように展開していけばよいのかを、公立園全体の課題として考えました。

公立保育所・公立認定こども園在園状況



CAケースで困難に感じていること



2. 保育現場での現状

どのようなケースでも、まずは園と保護者との間での信頼関係が大切であることが基本です。私たち保育士はその『基本』と「こうありたい」という『理想』に近づく為、あらゆる方向から保護者とコミュニケーションを持とうとしますが、実際の相手の反応は拒否型が増えつつあるのが現状ではないでしょうか。その結果、日々のやりとりの中で「もっとお互いわかり合いたいのに…」 「どうして心を開こうとしてくれないの？」という想いとらわれることもあります。

「その気持ちをどう前向きに捉えていくのがよいのか？」 「この気持ちは己自身の問題なのか？ それとも職員みんなが潜在的に思っていることなのか？」ということに思いを巡らせた時、自分達がやってきた方法が「はたして適切であったか」を、もう一度考え直していく必要があるのではないかとということになりました。

3. ワーキング

そこで私たちは、「良かれと思っていることを相手に押し付けていないか？」 「思い込みで行動しているのではないか？」 「その時の保護者と自分の関係はどのレベルにいるのか…」 という仮説を立ててみました。

そして、相手とコミュニケーションをとる上で必要と思われるものを元に「ものさし」を作り、対応する相手の姿を当てはめてみました。「ものさし」でついた○や×から、今度はその相手に対し、「どのような関わりが今は望ましいと思うのか」「どうしていけば変わるきっかけに繋がりそうか」を、ブレインストーミングの中で振り返り検討しました。

『信頼関係がとれている』とわかるものさし	Aさん	Bさん	Cさん
笑顔がある	○	×	
きちんと目が合う	○	×	
あいさつをしてくる	×	○	
相手からも話しかけてくる	×	×	
リラックスしている様子がみとれる	○	×	
他愛のない話ができる	×	×	
伝えたいことを話題にできる	○	×	



4. 考察と課題

園長会での話し合い、アンケート結果、ロールプレイを重ねてきて見えてきたことは「相手のためになりたい」「この園に入所したのだから、頼って欲しい」との自分像が大きいのではないかとということです。相手が真に求めているものと、その時の保育士側の提供が合ってこそ『保護者にとって初めて必要な支援』ができるのではないのでしょうか。

これからの課題は、まだまだたくさんあります。信頼のものさしを念頭に入れた対応も、なかなか結果に

結びつかないことがあります。言うなれば、それだけ保護者の抱える現実が、様々で複雑なものではないかと考えられるからです。そして、これから先も社会の中で生きにくさを感じ、うまく適応出来ず自分を苦しめる保護者が多くなっていくのではないのでしょうか。そのような中、公立園が本当に出来る支援は今後どういう形になるのか？地域全体をさらに絡めながらの支援の方法を、新たに見出していくことがまずは課題と考えます。

5. まとめ

自分たちは園長と言う職位ではありますが、困難な場面に出会った時にはやはり周りの意見を聞きチームで対応していくことが大切です。今回の研究では、園長会での意見やアドバイスを活かし実践したもの、園長会で得たものを各職場に下ろし実践したもの等、自分だけのスキルに頼らずに取り組んできたものが自分たちの中で糧になりました。実際クラスで困ったことが起きた時、ものさしを活用することで、何もない状態よりも前に進みやすくなりました。

今回の研究の取り組みは、『信頼関係のものさし』を元に職員自身が振り返り、保護者へのアプローチの見立てや見通しが立てられるように学びあいを深められる現場となれば、それが研究の成果と感じています。

また、相模原市は私立園と公立園が連携し合い、地域の様々な子育て支援に携わっています。その中で今年度は、公立の地域担当保育士と園長会が共に地域のニーズに合わせた子育て支援を検討する試みをスタートさせました。核家族化による育児継承の乏しさ、育児負担からの様々な社会問題の中で『育児を支え、育児力をアップする』中枢となれるよう、全園の連携を大いに利用し『伝わっていくことで、質の向上を図る』を、今後も実践の中で積み重ねて広げていきたいと思えます。

